【授業科目】成人看護学概論　　Introduction to Adult Nursing

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
吉田 和枝、豊田 妙子	２年次 前　期	必　修	2	30	講　義	あり	巻末 掲載	可

授業概要（内容と進め方）及び課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／ライフサイクルからみた成人の特徴、発達課題、健康の動向と保健・医療福祉政策について概観し、成人期にある人の健康障害、成人看護学で活用する理論・モデルについて講義する。また成人の健康状態に応じた看護についても教授する。 講義形式で、教科書を使用しながら適宜資料を配布して行う。 課題に対するフィードバック方法／提出されたレポートにコメントをつけて返却する。或は全体の総評コメントを授業内で提示・資料配布により公開する。
実務経験に関する授業内容	看護師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な成人看護の知識について、成人看護の実践や教材を交えながら指導していく科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー③「専門的知識・技術に基づき、地域に暮らすあらゆる健康レベルの人々にそれぞれ必要とされる看護を実践することができる。」の達成に寄与している。
到達目標（履修者が到達すべき目標）	① 成人の生活と健康について説明できる。 ② 成人への看護アプローチの基本について説明できる。 ③ 成人の健康レベルや状態に対応した看護について説明できる。 ④ 成人に対する健康学習支援、成人看護学で活用する理論・モデルについて説明できる。
時間外学習に必要な内容・時間	第 1～15 回事前、事後学習：各回の授業テーマに応じて、指定の教科書を事前に読んでおく。不足部分については自己学習をして補っておく（各 2 時間）。 【重要】 第 6、8、11 回事後学習：各回の授業内容を振り返り、不足部分は自己学習にて補っておく（各 2 時間）。 第 7、9、12、14 回はグループワークとなるため事前に自己学習をしておく（各 2 時間）。 ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1 回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画	
第 1 回　成人という対象の理解	吉田
第 2 回　成人の生活からみた健康	吉田
第 3 回　成人へのアプローチの基本	豊田
第 4 回　成人におけるヘルスプロモーションと看護	豊田
第 5 回　健康をおびやかす要因と看護	豊田
第 6 回　健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護	吉田
第 7 回　成人看護学で活用する理論　危機理論(グループワーク)	吉田
第 8 回　慢性病とともに生きる人を支える看護	豊田
第 9 回　成人看護学で活用する理論　病みの軌跡(グループワーク)	豊田
第 10 回　障害がある人の生活とリハビリテーション	吉田
第 11 回　人生の最期のときを支える看護	豊田
第 12 回　成人看護学で活用する理論　悲嘆、死の受容過程(グループワーク)	豊田
第 13 回　さまざまな健康レベルにある人の継続的な移行支援	吉田
第 14 回　成人看護学で活用する理論　ストレス･コーピング(グループワーク)	吉田
第 15 回　新たな治療法、先端医療と看護	吉田

評価方法 評価基準	定期試験 70%、提出課題・グループワーク 30%で総合的に評価する		
教科書	小松浩子他編系統看護学講座専門分野『成人看護学総論』医学書院 『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 (2 年次前学期　「公衆衛生学」で購入したもの)	参考書等	講義の中で適宜紹介する。
学生への助言等	授業に集中しメモをとり、看護学概論等、既修科目と結びつけて内容を理解できるように努力してください。そして成人看護学概論を基盤として、成人急性期看護援助論、成人慢性期看護援助論、成人急性期看護学実習、成人慢性期看護学実習に繋げてください。		